

日本スペイン 400 周年交流

萱野史奈

情熱の国、スペイン。おもてなしの国、日本。

今年でこの二国の交流は 400 周年を迎えた。現在、この 400 周年を祝うために、美術展などの多くの催しが日本とスペインで開かれている。

震災。これはこの二国間の交流開始のきっかけである。さかのぼること約 400 年前、東北で慶弔三陸大地震という巨大地震がおこった。これにより東北に甚大な被害がもたらされ、当時の人々は苦しんでいた。そこで、日本の復興と国際交流を願い、日本の伊達藩の支倉常長がスペインへ渡ったのだ。これが二か国交流のはじまりだ。

「この事業を通してチェンジをつくりたい。」そう語るのは、スペイン大使館で文化担当参事官として尽力しているサンティアゴ・エレロ・アミーゴさん。大使館内のオフィスの壁は、400 周年を記念するさまざまな催し物のポスターでカラフルに埋め尽くされていた。アミーゴさんは、この 400 周年事業を境に、今までの交流に変化をつけたいという。その取り組みの一つとして、日本にフラメンコだけではないスペインを発信していきたいとのこと。なかでも、オペラなどの音楽やアントニオ・ロペスなどのアートの発信に力をいれていきたいそうだ。反対に、スペイン人には伝統的な日本を積極的に発信していきたいと彼は話す。というのも、スペイン人の日本のイメージは、アニメなどのサブカルチャーの印象が強いからだという。現在、開催されている様々なイベントの 7 割は歴史を振り返るものではなく、将来につながるようなイベントにしてあるそうで、新しい関係を築いていきたい、と意気込みを語った。たとえば、2014 年 2 月に開催された『スペイン・日本観光フォーラム』では、日本とスペインの旅行業関係者が東京に集結し、相互的な観光促進やスペインの自然災害後のイメージの回復についての研究、そして第三市場での提携を目指すための討論が行われた。スペインと日本を結ぶ直行便がないことなどにより伸び悩んでいる観光客数を将来的に増加させるのが、このフォーラムのねらいだ。

「個人の興味ある分野に応じてスペインのことを好きになってもらいたい」と慶應義塾大学のスペイン語講師の菅原明江さんは言う。現にスペインでは、かつては低かった日本の認知度が近年の和食ブームという食文化から、少しずつではあるが上がってきているようだ。表参道でスペイン輸入雑貨店を営む小成富貴子さんは「20 数年前にスペインで日本料理店を訪れたときは、スペイン人はいなかったのですが、今はスペイン人ばかりで驚きました。」と話していた。このように、それぞれの興味や好みにあわせて自分自身の文化交流ができる。さらに、自分が抱いている関心を外に発信する意欲も個人レベルから高めることができる。そういった一人ひとりの意欲が今後の交流を深めていくカギとなるであろう。

「支倉常長は現代の日本における鏡だと思う。」スペイン親善大使の今井翼（タッキー

一&翼)は言った。2011年、東日本大震災がおこり、今も多くの人がより早い復興を願っている。そんな現代において、支倉常長が行ったような日本とスペインをつなぐ活動が再び活発化されているのだ。あなたもこの記念すべき400周年に、ぜひスペイン文化に触れてみてはどうだろうか。

【編集後記】

これは、私が入部してから初めて手掛けた記事でした。記事作成に際して、取材などの様々な貴重な体験をさせていただき、協力してくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。これから、読者により楽しんでもらえるような記事をかけるよう、努力していきたいと思います。

記事作成を通して感じたことは、スペイン文化に1日どっぷり浸る日を作りたいな、ということです。昼はスペイン美術に触れ、食事はスペイン料理を楽しみ、夜はフラメンコを鑑賞するという具合です。それほど、スペインは魅力的な国だと取材を通して感じました。あなたもこの際に、ぜひスペインデーを作ってみてはどうですか？(萱野史奈)